

強い経済を土台に

平和を守り ぬくもりある社会を築く



【国政報告⑮ 2024年夏】 防衛大臣政務官 三宅伸吾
自民党 参議院議員

【I 強い経済】

① 新しい太陽電池が日本を変える

▶ 薄く、軽く、曲る「ペロブスカイト」

社会の脱炭素化に向けた取組みの中で、熱い視線を集めているのがペロブスカイト太陽電池です。最大の特徴はとても薄く、軽く、曲げられること。このため、ガラス基板を用いた従来のシリコンウエハ型では設置が難しかった、重いものを載せられない屋根やビルの曲線状の壁面など様々なところでも発電できます。

従来型の太陽電池に使われるシリコンウエハのほぼ全てが中国産です。日本政府は太陽光発電の電源構成比を 2022 年度の約 9% から、30 年度には 14~16% まで引き上げる方針ですが、比率が高まっても潤うのは中国となります。

一方、ペロブスカイトの主な原材料であるヨウ素は国内で十分、調達できます。海外に依存する必要がなく、経済安全保障上の懸念もありません。技術開発でも日本勢が先行しており、国内で広く導入が進み、今後、海外市場も獲得できれば我が国の産業競争力の向上につながります。

しかし、課題もあります。フィルム型ペロブスカイト太陽電池の屋外での耐久性は今のところ 10 年前後とされ、シリコン型より短く、発電効率もまだ改善が求められます。導入費用については技術



積水化学工業のペロブスカイト太陽電池 写真：日経電子版「曲がる太陽電池、官民協議会を設立 導入目標など策定へ」（2024年5月21日）

開発の進展に加え、市場立ち上げに向けた官民の協力により、一定規模以上の導入量が確保できれば、大量生産によってライフサイクルコストはシリコン型と同等まで下がるようです。

▶ 環境外交、防衛協力にも

3月下旬、「自由民主党 再生可能エネルギー普及拡大議員連盟」(柴山昌彦会長)の総会・勉強会を開催し、事務局長に就任しました。初仕事として、上記のような考えからペロブスカイトを議題にとり上げました。



2025年の商業化を目指す積水化学工業の担当役員のほか、経済産業省資源エネルギー庁、環境省、防衛省、国土交通省、文部科学省、総務省、農林水産省の担当者にも参加いただきました。

民間分野だけでなく、空港、道路、鉄道、河川の法面(のりめん)のほか、防衛省・自衛隊が管理する敷地内も有力な導入候補地です。需要が膨らめば大量生産が可能となり、単価が下がります。また、自衛隊施設での運用ノウハウを有志国などに移転すれば、環境外交、防衛協力にもつながると考え、防衛大臣政務官としても新しい太陽電池導入の音頭をとっています。

▶ 自衛隊施設も再エネへ

防衛省・自衛隊は全国に庁舎や隊舎など約2万3千棟の建物を保有し、施設の更新を進めています。既存施設の更新と、ペロブスカイト太陽電池の市場化のタイミングが合えば、国産の材料により生産できる同電池を自衛隊施設にも積極的に導入すべきです。

導入拡大に向け、5月下旬には資源エネルギー庁の旗振りで関係する省庁や企業、業界、自治体などが参加する官民協議会も発足。脱炭素化で世界に貢献しながら「稼ぐ日本」を実現するため、議連としても精一杯の支援をします。

② バッテリー鉱物の確保へ

地球温暖化を防ぐためには二酸化炭素をできるだけ出さない社会にしなければなりません。ガソリン車ではなく電気自動車へ、火力発電から太陽光や風力発電へ、といった再生可能エネルギーへの移行が必要です。

こうした脱炭素化のカギを握るのが蓄電池（バッテリー）です。電気自動車の動力源に加え、天候に発電量が左右される再生可能エネルギー分野では電力の需給を調整する重要な装置です。このため世界でバッテリー市場が膨らんでおり、2030年には約40兆円前後になるようです。

➤ 悪夢は繰り返さない

このため、我が国でも官民を挙げ、有望なバッテリー産業の育成に取り組んでいます。しかし、大きな懸念があります。バッテリー生産に必要な鉱物の確保です。現在、採掘や精錬で中国に大きく依存しています。もし、中国が何らかの理由で、輸出規制するとバッテリー工場が止まります。中国がかつてレアアースの輸出を禁止、関連業界に衝撃が走ったことが思い出されます。



悪夢を繰り返してはなりません。そこで5月、「未来社会を創出する、バッテリー等の基盤産業振興議員連盟」（甘利明会長）の勉強会を開催、対応策を探りました。この議連は3年前、私が旗揚げを発案したもので、現在、事務局長を務めています。

鉱物資源を特定国に過度に頼らないという経済安全保障の観点から、アフリカ、南米などでの鉱山や塩湖開発を加速し、また水力発電で知られるカナダなどで環境に配慮しながら精錬工場などを早期に整備する必要があります。

③ 観光の高付加価値化 「世界の直島」

瀬戸内海に浮かぶ直島に地中美術館が開館したのは2004年でした。それから、たった20年で日本を代表する観光地となりました。「世界の直島」は如何に創られ、これからどのように発展するのでしょうか、興味は尽きません。

2025年春には「直島新美術館」もオープン予定で、瀬戸内はさらに内外の注目を集めることとなります。



地中美術館

写真：<https://benesse-artsite.jp/story/20211207-2198.html>

そこで4月中旬、事務局長を務める「ラグジュアリー観光等の振興を通じ、我が国経済と文化の発展等を目指す議員連盟」(河野太郎会長)の勉強会の講師に、公益財団法人福武財団事務局長の笠原良二氏を迎え、直島の軌跡と今後を探りました。



「在るものを生かし
無いものを創る」。

美術の力で、
「笑顔が溢れるコミュニ
ティ」を築く。

こうした、ぶれない理念
に強い共感を覚えました。

最上段の右上：笠原良二 福武財団事務局長

【Ⅱ 平和な暮らしを守る】

① ミュンヘン安全保障会議に参加

➤ 「トランプ氏を最前線に」

2月、日本政府の代表としてドイツでの第60回ミュンヘン安全保障会議に出席しました。北大西洋条約機構（NATO）加盟国などから多くの政府高官が集まる会場がざわめいたのはウクライナのゼレンスキー大統領のこんな発言でした。「トランプ氏がウクライナに来れば、最前線に案内する用意がある。」



ゼレンスキー大統領

実は安保会議の直前のこと。トランプ前米大統領は、防衛費を増やさないNATO加盟国に対してロシアが攻撃しても、これを容認するとも受け取れる発言をし、加盟国に大きな衝撃が走りました。

北大西洋条約は、いずれかの加盟国に対して攻撃があった場合、その他の加盟国が反撃するという集団防衛義務を定めています。トランプ発言は米国がこの義務を果たさない可能性を示唆するものでした。

ウクライナはNATO加盟国ではありませんが、米バイデン政権を含め加盟各国から支援を受け、ロシアの攻撃に何とか踏みとどまっています。

➤ ウクライナ最前線は民主主義の防波堤

ウクライナの敗戦はロシアの横暴がまかり通ることを意味し、他の専制国家の指導者を勢いづけます。ウクライナの最前線は、専制主義に脅かされる民主主義のいわば防波堤です。ゼレンスキー大統領には、トランプ氏がその惨状を目の当たりにすれば集団防衛義務を軽んじることはできないとの強い思いがあったのでしょ

ミュンヘン安全保障会議に限らず国際会議では、合間を縫って二国間会談や歓迎会での立ち話も重要です。今回、私はフィンランド、エストニア、スウェーデンの国防大臣、リトアニアの国防副大臣との会談のほか、ジョアナ NATO 事務次長とも意見交換しました。



ジョアナ NATO 事務次長

② バルト3国を訪問

ロシアが極東で接するのが日本ですが、ロシアの西側での隣国がバルト3国です。北からエストニア、日露戦争でバルチック艦隊が出航したラトビア、そして飛地のロシア領カリーニングラードに接するリトアニアです。



出典：毎日新聞 経済プレミア 2017年4月3日

▶ 共通の苦い歴史

いずれの国も、ソ連に併合されたことがあります。独立した現在は NATO 加盟国です。4月下旬から5月にかけて、これら3カ国を訪問、外務・防衛の政府高官らと会談。各国とも過去の苦い歴史から、ロシアに対する強い警戒心を抱いており、ウクライナ支援や地雷除去、サイバー防衛などで協力の深化策をともに探りました。

NATO では加盟国それぞれの防衛費について GDP 比 2% 目標を掲げています。2024年、加盟約 30カ国のうち 18カ国の国防費が 2% に達します。ロシアがクリミア半島に侵攻した 2014年時点ではたったの 3カ国だけでした。ドイツは 1992年以來初めて、2024年に 2% になります。



エストニアのヘレム国防軍司令官との会談



ウクライナ国旗などを掲げるリトアニアの国防省ビル正面と、
トムクス国防副大臣との会談@首都ビリニユス

③ 安保環境、戦後最大の試練に

目を極東に転じれば、北朝鮮は核・ミサイル開発を進め、軍事偵察衛星の整備にも着手。中国は軍事力の質、量を広範かつ急速に強化しており、日本を含む国際社会は安全保障面で戦後最大の試練の時を迎えています。

➤ 南西地域の防衛強化

このため我が国は防衛力の強化に取り組んでいます。例えば、全長 1200 km に及ぶ南西地域。沖縄本島を除けば、陸上自衛隊の部隊の配備はありませんでした。安全保障環境の悪化を受け、2016 年以降、与那国駐屯地の開設、奄美大島と宮古島への部隊配備のほか、2023 年 3 月には石垣駐屯地も開設しました。



石垣駐屯地

現地を確認するため、2 月下旬に石垣駐屯地、那覇駐屯地、航空自衛隊の那覇基地を視察。スクランブル発進の現場などで状況報告を受け、隊員を激励しました。

➤ 最西端の地 最も近いコンビニは台湾

5 月には日本最西端の与那国島へ。駐屯地の沿岸監視隊と航空自衛隊第 53 警戒隊から報告を聴取。24 時間 365 日、任務遂行する隊員には感謝の言葉しか見当たりません。南西地域において最も重要な拠点のひとつです。

与那国島では15世紀頃に島を統治したサンアイ・イソバという女傑の伝説を耳にしました。彼女は2m40cmという巨体と怪力で、多くの侵略者から島を守り、現在も島民から尊敬を集めているそうです。島には彼女のこんな逸話が残っています。

「サンアイ・イソバは、周辺の島々に自分の存在を知らしめるため、自分の足の大きさの草鞋(わらじ)を編み、海へ流した。」



最西端の島、与那国島から台湾までは約110km。年に20日前後は肉眼で台湾を望めるようです。

脅威を正しく把握すること、そして自分の家族、国は自分で守るという意識をしっかり持って、備えることが大事です。侵略されてから、十分な抑止力を保持しておくべきだったと悔やんでも、平和はなかなか取り戻せません。

④ ミサイルなどの危機管理対応

防衛大臣、副大臣、政務官は交代で昼夜を問わず日々、危機・災害対応に当たっています。北朝鮮によるミサイル発射事案や能登半島地震など大規模災害が起きると、速やかな情報共有のうえ適切な対処、対外広報などに努めます。

➤ 島を守る女傑

島を守る強い自分があるぞ、と示したのでしょう。まさに、抑止力そのもの。駐屯地のシンボルマーク中央にいるのが彼女です(写真下)。





NHK の NEWS WEB より



北朝鮮が軍事偵察衛星を打ち上げたことと主張する事案を受けての会見

【Ⅲ むくもりある社会を築く】

強い経済を土台に、独立と平和を守り、社会にむくもりが溢れていることが大事です。

▶ 自分らしく生きる

むくもりある社会。子どもたちがお腹を空かせてはいけません。介護、医療ケアが十分受けられることも必要です。地域でお祭りができ、災害時には助け合える絆をしっかりと育むべきです。



多和神社の秋祭り@きぬき市志度

また、人権が尊重されなければなりません。誰もが理不尽なルールや因習に縛られることなく、自分らしく生きるべきです。こうした社会を実現するためには多くの課題がありますが、私に関心を寄せ、力を注いでいるものを少し紹介します。

① 選択的夫婦別姓制度の早期導入

まず、選択的夫婦別姓制度です。これは結婚する際、同姓にするか、または夫婦それぞれが今まで通りの姓を使い続けるかを選べるものです。我が国は明治31年から法律が同姓を義務付けています。このような仕組みを今も続けているのは世界でも我が国だけ。夫婦の姓は必ず同じというルールのために、長年使い続けた姓を変更することに堪えがたい苦痛を感じる人も少なくありません。このため、仕方なく事実婚を選ぶ人もいます。

こうした方々が自分らしく生きるためには別姓も選べるような法律改正が必要です。そこで、3年前、「選択的夫婦別氏制度を早期に実現する議員連盟」(浜田靖一会長)を立ち上げ、共同事務局長として活動しています。

▶ 全国初、県内すべての議会が意見書を可決

今年3月、県内の全ての議会が選択的夫婦別姓制度の議論の活性化を国に求める意見書を可決したのが香川県です。全国初となったことを受け、「選択的夫婦別姓を願う香川県民の会(ぼそぼその会)」が5月、高松市で開いた車座対話集会に参加しました。一日も早い制度導入を望む皆さまの声を耳にし、改めて政治の責任を痛感しました。6月には経団連が今の制度が「女性活躍を阻害する」として、早期実現を求める提言を公表しました。



車座対話集会@高松市

前列右から、宮本隆・宇多津町議会議長、谷康男・小豆島町議会議長、山下紀子・選択的夫婦別姓を願う香川県民の会(ぼそぼその会)代表、井田奈穂・一般社団法人あすには代表理事、谷合正明・参議院議員(公明党)

瀬戸内海放送の関連ニュース



② 子ども、医療的ケアが必要な方々への支援

核家族化が進み、孤立する人が増えています。子どもたちが自由に集まり、一緒に楽しく過ごせる居場所作りが必要です。長期療養が必要な子どもだけでなく、その家族の精神的負担も図り知れません。

将来を担う世代などをしっかり応援して参ります。



子ども食堂「みんなのまめの木食堂」の開店前に、お手伝いにかけてつけた児童と@高松市

「子育てネットひまわり」有澤陽子代表理事にご案内いただきました。

お寺のお供え物を自宅に送り届ける「おてらおやつクラブ」。協力のお願いに県内の市長、町長を訪ねました。写真は右から香川県仏教会の鎌田拓子事務局長、伊藤良春三木町長@町役場



讃岐おもちゃ美術館@高松市。漆器、手毬など地元の伝統工芸品、木材をふんだんに使った民設・民営の遊び場。「わははネット」中橋恵美子理事長と



長期治療が必要な子供たちとその家族を支援する「未来 ISSEY」の吉田ゆかり代表理事と@丸亀市



ベッドから車椅子への移動を体験。医療的ケアの必要な方々を支援する「在宅療養ネットワーク」の英早苗代表理事と@高松市



特定非営利活動法人「あおぞら」の氏家しげみ理事長（上段中央）の案内で、子ども食堂「ひみつきち てつや」を視察@多度津町

【IV 凜とした日本】

我が国は様々な課題を抱えながらも、
経済が比較的安定し、
自由な民主主義の国として、その存在は世界の中で際立っています。

四季を織りなす、美しい讃岐路と瀬戸の自然。
長い歴史と素晴らしい伝統文化、おもてなしの心を持ち、礼儀正しい、
私たち。

教育などを通じ、「凜とした日本」に、さらに磨きをかける。

命を使って、この使命を果たします。

さぬき市大串半島から瀬戸内海を望む



日本の未来を担う学生と。
昨年につき、今春も国勢調査
などについて講義@香川大学



政務官としての活動の詳細は
防衛省 HP に記載。



自民党員を募集しています。
お問い合わせ 三宅しんご事務所

お手続きはこちらから →
電話 087-802-3845
kagawa@miyakeshingo.net



【自由民主党香川県参議院選挙区第二支部 2024年夏・発行】